

総合特別区域の進捗に係る評価  
[アジア拠点化・国際物流分野]

令和2年度

ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年9月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (4.3+4)/2=4.2

4.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	企業間連携による用役コストの低減	163%	5
2	水島港の輸送効率改善による貨物取扱量	71%	3
3	企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保	225%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 (5×2+4×0+3×1+2×0+1×0)÷3=4.3

4.3

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 (4.3+3+3.8)/3=3.7

3.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

- ・評価指標(2)については、目標値に達していないだけでなく、平成29年度から年々実績値が減少する傾向にある。要因の一つとして、世界的な新型コロナの感染拡大をあげているが、この減少傾向はそれだけでは説明できないのではないかとあるが、どのような取り組みをすれば成果につながるのかを再度、検討すると良いのではないかと。
- ・全国の製造品出荷額等に占める倉敷市の割合については、過去の実績値が十分でない点につき、新型コロナウイルス感染症が大きな理由に挙げられているが、令和元年度については同感染症の日本への影響が令和二年3月中旬以降であることを踏まえると影響はほとんどないと思われる。よって、報告書に記載のあるエチレンプラントの統合以外にも他の要因が考えられるのではないかと。
- ・企業間連携による高効率・省資源型コンビナートを目指した取り組みの蓄積が成果となって表れてきている点が高く評価される。また、水島港の機能強化についても、特例措置活用で着実に実績が積み上げられている。コロナショックのような外生的なショックに対応するためのサプライチェーン効率化・多様化が国内外で重要課題となっている。このような中、本特区でも誘致を強化していく産業の多様性をいかに図るかということは課題となるだろう。本コンビナート全体でこれまでに成果を上げてきた高効率性、水島港全体の物流機能の強化の成果を活用して、環境関連産業や、製造・サービス業の研究開発拠点等、多様な成長産業をいかに誘致するかの戦略が改めて必要となるとと思われる。
- ・コロナの影響もあるが、概ね順調と評価できる。ただし、「全国の製造品出荷額等に占める倉敷市の割合1.53%(H26年)→1.53%以上(R3年)」という目標はここ数年全く動いていないので、再考の余地がある。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.2+3.7+4 \times 2) \div 4 = 4$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。